



November 8-9, 2016
2016年11月8日～9日
Belle Salle SHIBUYA FIRST
ベルサール渋谷ファースト
Tokyo, Japan



エナジー・ストレージ・サミット・ジャパン 2016 ポストショーレポート

他に類を見ないエネルギー貯蔵事業、政治・経済を超えた対話を実現

エネルギー貯蔵は、特に島国日本にとって、再生可能エネルギーの普及において重要な要素である。2016年、日本においては、電力小売自由化が実施されエネルギー産業は変化の過渡期である。その変化に呼応して、メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンは、2016年11月8日及び9日に第3回目の「エナジー・ストレージ・サミット・ジャパン」を開催した。

豊かな国際性

日本、米国、ドイツ、韓国、台湾及び中国をはじめ、**世界 24 か国・285 名**を超える関係者が会議・展示会に参加し、盛況裡のうちに終了した。2日間にわたって、エネルギー貯蔵の専門家たちにより、エネルギー貯蔵業界についての見解、何が最も良いプラクティスか、新規ビジネスモデル、スマートシティへの応用、最新のストレージ技術の動向について、活発な議論と意見交換がなされた。

ビジネスに照準を

エネルギー貯蔵分野の専門達が集い、124もの企業、産業界から参加者が来場した。参加者が多かったのが、シニアマネージャーで24%であった。ここには、GSユアサ、NEC、日本ガイシ、パナソニック、住友電工等の企業が入る。その他自動車産業界からBMW、テスラモーターズ、トヨタがエネルギー貯蔵に関する企業の姿勢について講演した。11%の参加者はフラウンホーファー研究機構（ドイツで最大規模）のような研究機関で、日本からは産総研やNEDOが参加した。ブルームバーグのようなメディアから5%、そして銀行、保険分野からは三井住友銀行、Aonから5%の参加があった。

特筆すべきは、政治経済界から米国エネルギー省のI. ジュック博士、ハワイ公益事業委員会委員長のL. アキバ氏及びドイツ・エネルギー貯蔵協会専務理事、U. ウィンデレン氏のような国際色豊かな一流のパネリストを迎え行なわれたカンファレンスである。第1日目の最後のパネルディスカッション「ドイツのエネルギー転換における成功事例」においては、アーデナウアー財団のエネルギー安全と気候変更プロジェクト担当局長P. ヘー

フェレ博士が司会を務め、Energy Storage Europe 会長 兼 ZAE Bayern 研究所 部長の A. ハウアー博士、エレクトロケア社 代表取締役社長 M. ハイン博士、グスタフ・クライン社 副社長の B. リル氏が活発な意見交換をしていた。

高い満足度

ESSJ は講演者からのみではなく、参加者から高い満足度を得た。11 月 10 日に行なわれたサイト・ビジット・ツアーイトツアーでは、いくつかのストレージ技術を直接体験する機会を提供した。規制、ビジネスケース、ストレージアプリケーションに関する最新の情報をタイムリーに提供する質の高いスピーカーだけでなく、参加者の合計 74%が ESSJ を非常に満足または満足のいくものと評価した。

スピーカーの一人であるハワイ公益事業委員会委員長の L. アキバ氏は以下のように述べた。

エナジー・ストレージ・サミット・ジャパン 2016 は、現在の重要なエネルギーに関する話題を一つの場所で集中して講演する有益な国際会議です。サイト・ビジット・ツアーで訪れた蓄電池、エネルギーマネジメントシステムプロジェクト、再生可能エネルギープロジェクトを含む様々なプロジェクトへの訪問はとても重要で個人が訪問出来ない施設を訪れることができました。この会議では、参加者に、世界各地のさまざまな代表者とエネルギー貯蔵に関して会するチャンスが与えられました。

ビジネスプラットホームとネットワーキング

ESSJ は、情報を収集する場所のみではなく、ネットワークとしても活躍した。11 月 8 日のネットワーキングレセプションに加えて、新たに導入されたサービスの 1 つは斬新的だ。国際会議参加者がミーティングを希望するスピーカーと 1 対 1 で会談をすることができる “Meet the Speakers”。これにより、米国エネルギー省の I. ジュック博士、千代田化工建設株式会社の岡田 佳巳 博士、インド・エネルギー貯蔵協会 専務理事の R. ワラルカール博士等の専門家と直接意見交換をする機会が提供された。セッション 6 の司会を務めた NEC スマートエネルギービジネスユニット主席主幹の花房 寛博士 は以下のように述べた。

今年の Energy Storage Summit Japan 2016 は、良く練られたプログラムと他を圧倒する充実の講師陣により非常に有意義な討議が展開されて大変充実したものでした。エネルギー関連事業者だけでなく、認証機関や大学、銀行や保険会社、自治体や政府機関など、いろいろな方面の専門家が国内だけでなく海外からも多数参加してくれました。しかも極めてレベルの高い方が多く、新しい知見が融合することにより、今後どう動くべきかのヒントを得ることが出来たと思います。ESSJ は黎明期の蓄電産業を開花へと導くイベントとして大変期待しております。

国際会議参加者だけでなく、出展社も ESSJ を重宝していた。10 社の出展社は日本、ドイツ、フランスからで、彼らの技術をブースで発表するだけでなく、国際会議会議参加者にプレゼンテーションを通して製品についての知識を提供した。出展社の 1 社である住友電気工業株式会社 エネルギーシステム事業開発部の孟 科氏は以下のように述べた。

「蓄電池の導入が先行している欧米の運用事例が紹介され、当社の製品開発や販売に大いにヒントを与えました。また、熱貯蔵や水素に関しても議論がされており、これからの社会にこれら異なる特徴を持つエネルギー貯蔵の技術はどう活用していくべきか、考える良い機会でもありました。来年以降の ESSJ においてもこのように広い視野での議論を期待しています。」

次回のエネルギー・ストレージ・サミット・ジャパン (ESSJ) は、2017 年 11 月 7 日、8 日に予定されておりテーマはエネルギー・ソリューション、ガスと水素、スマートハウス・アプリケーションやその規制、E モビリティの電動化と多岐に渡る。

コンタクト先

Dr. A. メルケ / 永田 健

〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町 4-1

ニューオータニ ガーデンコート 7F

T: (03) 5210-9951 M: essj@messe-dus.co.jp

プレス用写真: https://essj.messe-dus.co.jp/jp/press_photos/

プログラム: [https://essj.messe-dus.co.jp/fileadmin/essj/uploads/pdf_2016/](https://essj.messe-dus.co.jp/fileadmin/essj/uploads/pdf_2016/ESSJ2016_VDEFDJ2016_program.pdf)

[ESSJ2016_VDEFDJ2016_program.pdf](https://essj.messe-dus.co.jp/fileadmin/essj/uploads/pdf_2016/ESSJ2016_VDEFDJ2016_program.pdf)

Web: https://essj.messe-dus.co.jp/jp/energy_storage_summit_japan/

Facebook: <https://www.facebook.com/EnergyStorageSummitJP/>

Twitter: http://twitter.com/ESSJ_2016

Energy Storage Summit Japan (ESSJ) とは

エネルギー・ストレージ・サミット・ジャパン (ESSJ) は、メッセ・デュッセルドルフが手がける『ワールド・オブ・エネルギー・ストレージ (WOES)』のひとつとして 2014 年に初開催。発蓄電が世界中で産業、化学、政治を動かす重要な要因であるという認識に基づく国際会議・メッセシリーズ WES は、現在 3 大陸・5 か所で行われ、世界でも最も重要なエネルギー市場である欧州・北米・中国・インド・日本をカバーしている。

株メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンとは

株メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン (MDJ) は、ドイツのメッセ (業界専門見本市) 主催会社であるメッセ・デュッセルドルフの日本における子会社として 1994 年に設立。メッセ・デュッセルドルフグループが世界中で主催するメッセへ出展・来場の日本企業をサポート、ならびに日本国内で業界セミナー・国際会議・メッセを主催する。
